

放課後等デイサービス自己評価表

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など |
|---------|----|---|----|-----|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・全室を開放して広々と使えるようにしている。整理整頓を心がけていく。 ・利用者の方の様子により、多くの職員配置にしている。障害の方や障害特性に配慮して、個別でつける職員が必要。 ・バリアフリーの支援室にし、クールダウンのスペースを作り、利用者の方の思いを組み入れられるように配慮をしている。構造化の一つとして、視覚支援に力を入れていきたい。 ・毎日、全室、床の拭き掃除を行い、清潔を保つように心がけ、床は低反発のマットを敷き、心地よく座れる配慮をしている。 ・職員と利用者さんのトイレは分かれていた方がよいのではないかな。 |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 6 | 1 | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 7 | | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 6 | 1 | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 6 | 1 | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・朝礼を通して、目標設定と振り返りをおこなっている。目標設定と振り返りの仕方に定期的に改善を求めている。 ・セルフチェックシートを毎月とり、チェックがされている項目は、意見を聞いたり、面談している。管理者が職員の声に耳を傾ける努力を心がけていきたい。 ・相談支援事業所、学校など施設を知る関係者に意見を聞くことをしている。 ・施設を知る関係者に客観的な意見を聞くことを心がけていきたい。 ・会社として外部の方を呼んで、面談や研修をしている。また、社外研修にも参加をしている。さらに職員の資質向上や、職員のやりがいの為、研修には更に力を入れていきたい。 |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 7 | | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 7 | | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 6 | 1 | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 7 | | |
| | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 6 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己選択、自己決定の場をより多くできるように機会を更に設けていきたい。 ・アセスメントは適宜、節目ごとにとって、ニーズの聞き取りを行い、ニーズと課題に向かう為の会議をしている。また、分析に偏りがないように、職員は学びを得ていかなければならないと感じている。個別ファイルにいて、確認をしながらの支援を心がけている。 ・計画から、毎日の目標を起こしているが、個別の気になる所は時間をとり、より踏み込んだ支援は必要である。 ・発達検査等を参考にし、標準化された指標を重視しているが、適応行動の状況を客観視するツールは増やしていく必要がある。 ・放課後デイサービスの支援の3本柱を意識した個別支援計画の策定を行っている。地域支援、地域連携の分野はもう少し踏み込んでいきたい。 ・毎日の朝礼で日々の活動プログラムの立案を行っている。もっと他の放課後等デイサービスの活動プログラムを参考にしていけたらよい。 |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 7 | | |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 7 | | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 7 | | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 7 | | |

| | | | | | |
|--------------|----|--|---|---|---|
| 適切な支援の提供 | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムは毎日振り返りを行い、固定化しないように努めている。 ・個別活動、集団活動を時間を分けて毎日実施している。個別支援計画にも反映している。もっと、個別活動、集団活動の内容の幅を広げていきたい。 ・支援開始時間前は、確認を行い、詳細に計画を立てている。職員間の連携の仕方も話し合い業務日誌に記載もしている。 |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> さらに、職員間の連携が図られるための報連相のシステムには努力していきたい。 ・振り返りは必ず行い、利用者さんの個別の振り返り毎日確実にやっている。気づいた点の共有はしているが、そこへの考察は深めたい点である。 |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なモニタリングは行っている。見直しにも努めている。更にサービスの見直しを意識し、利用者様によりそったモニタリングを心がけたい。 |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに自分で考えてもらえるような声かけの工夫を考えている。選択ができるような声掛けとツールを利用している。 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 7 | | |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 7 | | |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 7 | | |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 7 | | |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。 | 7 | | |
| | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 7 | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議には管理者、児童発達支援管理責任者が出席している。 ・話し合いの場を設けたりして連携に努めている。更に体制を整えていけるように努めていきたい。 |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有は子どもの下校時の引継ぎの際にできるように努めている。トラブルの発生時は改善案も学校提出している。更に、学校との情報共有は定期的に行えるシステムの構築はしていきたい |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎ書面を頂くことで情報共有をしている。利用が確定した時点で児童発達支援事業所での様子は事前に観にいき、様子をつかむ必要がある。 |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・就学時の状況によっては障害福祉サービス事業所等へ情報提供を行う場合もある。積極的に行ってはいないので、意識をして行動したい。 |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | 5 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業所からのアドバイスは参考にして支援に当たっている。研修にも行っている。職員間で、研修内容の共有を図れるように努めていきたい。 ・地域の施設を使うことはある。また、地域の他のこどもとの活動する機会を意識して取り組みたい。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | 5 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の取り組みや活動内容は理解している。積極的な参加という点を意識していきたい ・引継ぎ時に意識し、出来る限り言葉で、伝えられるようにしている。連絡帳にも書いて伝えている。課題についてどう支援をしたかはもう少し詳細を伝えられるように努めたい。 |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | 2 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレの案内はしたり、掲示物を通して示したりして、研修の |

| | | | | | |
|----------|----|---|---|---|---|
| | 33 | (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。 | 5 | 2 | 案内をした。 ・定期的な通信で利用者様の様子を伝えましたが、情報提供の場を多くしていく必要性を感じている。研修の案内は積極的にしていきたい。 |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。 | 7 | | |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 7 | | |
| 保護者への説明等 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 7 | | ・契約時に説明をしている。しかし、説明の仕方には、工夫が必要である。確実に伝わるように伝え方の努力をしたい。 ・保護者の気持ちや利用者様の気持ちを常に考えた支援を職員間の連携を図り努め、言葉の選び方にも配慮をしている。また、意思の尊重という観点は事業所目線の考え方にならないように努めこどもの最善の利益に主眼をおきたい。 |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 7 | | ・支援計画の説明は時間をとり行っている。不安、不明瞭な点は後日伺うようにしている。さらに丁寧な対応を試みていきたい。 |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | 7 | | ・相談には、出来る限り、時間を取り丁寧に行っているが、もっと保護者様の悩みが軽減できるような具体的な助言ができるようスキルを積みみたいと感じている。 |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 7 | | ・兄弟についての困り感への対応は相談では応じてきた。 ・兄弟同士での交流の機会は設けていけるようにしたい。 ・苦情に関しては、出来る限り丁寧に迅速に、その日の解決を試みた。今後も引き続き行いたい。 |
| | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機を設ける等の支援をしているか。 | 4 | 3 | ・定期的な通信の発行はしてきたが、SNSなど情報発信のツールは増やしていきたい。 ・名前は一切、文章でも口頭でも、施設外に出すことはしていない、写真は承諾を頂いた方のみ、通信等に載せている。意識を高くして今後も気を付けていく。 |
| | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 7 | | ・子どもたちや、保護者様には、丁寧な対応を試みている。分かりやすい文面での伝え方を工夫している。配慮に努力を惜しまない姿勢を職員間で共有していく。 |
| | 42 | 定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | 7 | | ・地域の施設を利用している。 ・パンフレットを地域の方に配布した。地域の方に事業所のことを知って頂く方法を更に考えたい。 |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 7 | | |
| | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 7 | | |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 5 | 2 | |
| 非常時等の | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 6 | 1 | ・契約時に説明をしている。防災の訓練は定期的に行っている。訓練時の情報発信は力を入れていきたい。 |
| | 47 | 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 7 | | ・BCPの策定は行い、研修も行った。避難訓練も実施している。非常災害発生時のロールプレイ形式の研修はしていきたい。 |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | 7 | | ・契約時に確認を行い、職員間の周知も行っている。服薬も確実に、保護者への伝達も行っている。てんかん発生時の対応はロールプレイなどで具体的に行いたい。 |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 7 | | ・食物アレルギーのあるお子さんの把握は努め、調理時など代替え食物の提供をしている。保護者様も把握していない食品でのアレルギー反応にも適切な対応が図れるようロールプレイで訓練したい。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 7 | | ・衛生、車両、訓練等を通して、安全確保に努めている。更なる研修と訓練を講じていきたい。 ・安全確保に関しては、何かあれば必ず保護者に連絡し、策を講じ説明もしている。保護者様の安心につながる策の策定を常に考えていきたい。 ・ヒヤリハットは毎日確認し、振り返りを行っている。より沢山のヒヤリハットが職員から出るようにしていきたい。 |

| | | | | |
|----|----|--|---|--|
| 対応 | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・虐待研修を定期的実施しているが、グレーゾーンの虐待事例への考えを深めていきたい。 ・職員間で身体拘束の話し合いを行い、個人の主観によるものでなく、共通認識でのやむを得ない身体拘束の可能性とは何か。を慎重に考えていきたい。 |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 7 | |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 7 | |
| | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 7 | |